

## ■「タックル自慢、夏に鍛える－1部6校のLBたち」④

### 火付け役になる－北海道大

8月6日、札幌市北区の北海道大北24条グラウンドで、北海道大ビッグ・グリーンの選手たちが練習に汗を流した。この日の札幌は正午の気温が24.6度で湿度は76%。蒸し暑さの中で水分補給と体調管理に気を遣いながらのトレーニングとなった。道学生選手権（秋季リーグ）で3連覇を目指す北海道大だが、昨季は爆発力を見せた攻撃陣が主力選手のけがもあり、春のオープン戦では3試合で10得点と低調。奮起を促すように守備チームの練習に熱がこもった。

4-3守備の柱となるLB陣は、副将で守備リーダーも務める千葉克真（4年、花咲徳栄高）を軸に荘司真輝（3年、東京・早稲田高）、小野田天馬（3年、奈良高）が先発し、都築駿輔（3年、愛知・海陽学園高）がバックアップする。「体が大きくないのでスピードで勝負。プレーリードにも力を入れたい」と千葉がLB陣の特徴を説明した。関東1部トップ8の東京大と対戦したオープン戦では前半途中で中断するまでに2TDを許したが「フィジカルでも負けてなかった。LBとして自信を持てるプレーができた」と千葉。一方、0-37と完敗した北海学園大戦は「ラン、パス守備とも課題が多かった」と修正点も見つかった。

25日の開幕戦に向けて力を入れるのがオープンのランプレー対策。タックル力のアップも欠かせない。昨季は毎試合で記録したLBのインターセプトも狙う。「オープン戦の北海学園大戦では3回のチャンスを落球で逃した。キャッチ力を磨く」と千葉。「今季はどの試合も楽に勝てないと思う。チーム全員で勝ち切るために一丸にならないと。LBが火付け役になる」と力を込めた。荘司も「スピードが自慢。ロスタックルとインターセプトで暴れまくる」と宣言し、小野田は「相手プレーのリードを早くしてロスタックルを決めたい」、都築も「北海学園大のランを3ヤード以上走らせない。高杉選手を抑え込む」と、ライバルチームへの闘志をかきたてていた。



「チームへの火付け役に」と意気込む左から荘司、千葉、都築、小野田のLB陣